第１回モンゴル訪日統計視察団の来日（５月）

当財団は、2005年９月、モンゴル国家統計局（以下、MNSO）との協力事業を３年間にわたって行う協定を締結した。その目的は、1.それぞれの機関の政府統計活動への関心の促進、2.両国相互の理解、友情および繁栄の増強・促進、3.統計職員の能力の強化、などである。

この協定書は、毎年２機関間の統計視察団の交換およびMNSOの中央・地方の統計職員のためにウランバートルにおいて２、３日間のセミナーを開催するという２つの主要事業を含んでいる。協定締結に至る経緯およびその内容については、本誌2005年12月号を参照されたい。

この協力事業が開始されるに当たり、当財団内部には“モンゴルチーム”が結成された。総勢３名のメンバーが事業の企画・運営を行っており、筆者は、そのメンバーの１人としてこの業務の遂行に当たっている。今年度の協力事業としては、予定どおり統計視察団の来訪（５月）、ウランバートルにおける統計セミナーの実施（９月）が行われた。ここでは、５月の統計視察団の来日に関して触れることとする。

協定の締結から約８ヶ月後、本年５月24～31日まで、モンゴルより第１回目の統計視察団が来日した。団員は、MNSO国際関係課長ガンスフ氏、チュフ（中央）県統計部長オトゴンチュルウン氏の２名であった。オトゴンチュルウン氏は初めての、ガンスフ氏は２度目の来日であった。また、ガンスフ氏は職掌柄、英語が堪能であった。

当財団において小地域統計の研修を受ける視察団

総務省統計局にて
左：オトゴンチュルウン氏、右：ガンスフ氏

１週間の滞在中、視察団は、総務省統計局、㈱統計センター、東京都統計部、国連アジア太平洋統計研修所、㈶日本統計協会、とうけいプラザ（東京タワー）を訪問し、それぞれにおいて研修、意見交換等を行った。また、当財団においても小地域統計に関する研修、当財団が開発した教育用統計GISソフト「使ってみよう国勢調査データ（G-Census）」、「小地域簡易ビュアー」およびデータ提供に関する説明、さらにウランバートルで９月に実施する統計セミナー実施計画についての打ち合わせ等を行った。

週末を利用して、土曜日は鎌倉の社寺巡り、横浜散策、日曜日は江戸東京博物館、深川の富岡八幡宮の横綱碑などを見学する都内観光を企画し、もう1名の運営メンバーである伊藤亜紀子と筆者がそれぞれ引率した。日本の文化に親しんでもらう機会となり、また、両日とも１名ずつ在日モンゴル人の友人（次頁写真左から２番目、MNSO職員、当時アジア太平洋統計研修

所にて研修中、土曜日）が飛び入り参加したこともあって、視察団の両氏も休日を満喫したようであった。

滞在中最後の夜は、当財団会議室でささやかながらお別れ会を催した。一通りの日程を終えたリラックスムードの中、会は大いに盛り上がった。印象に残ったのは、モンゴルでは野菜は飼料との認識であり、事実、人はほとんど摂取しないという話であった。夏は白い食べ物（乳製品）、冬は赤い食べ物（肉）を食す習慣で、極寒の冬には高カロリーの肉を沢山摂る必要があるのだと言う。肉は当然、羊肉がメインだろうと思っていたら、牛肉の消費の方が多いそうである。また、彼らが日常飲む酒はアルコール度数50度のウォッカである。私たち職員もご相伴に与ったが、とてもとても彼らのような飲みっぷりというわけには行かない。これも元々は極寒の地で生き抜くための知恵の１つなのだろう。触れ合ってみなければ分からない両国間の様々な違いを新鮮に感じた１週間であった。

滞在スケジュール

5/24（水）	来日
	Sinfonica専務理事主催夕食会
5/25（木）	国連アジア太平洋統計研修所訪問（ダバスーレン所長表敬）
	Sinfonica（業務概況）
5/26（金）	総務省統計局訪問（局長表敬、調査企画・実施関係）
	㈶日本統計協会理事会・評議員会懇親会参加
	Sinfonica（データ提供の実際、GIS紹介など）
	Sinfonica会長主催夕食会
5/27（土）	鎌倉・横浜観光（稲村ヶ崎、鎌倉大仏、山下公園等）
5/28（日）	東京観光（江戸東京博物館、富岡八幡宮等）
5/29（月）	㈱統計センター訪問（データ・エディティング）
	Sinfonica（９月のモンゴル統計セミナー打ち合わせ）
5/30（火）	東京都庁訪問（統計部長表敬、東京都概況）
	㈶日本統計協会訪問（業務概況）
	東京タワー内とうけいプラザ見学
	Sinfonica主催帰国送別会
5/31（水）	帰国

鎌倉大仏とともに

翌日の６月１日は、モンゴルの「母の日・子どもの日」という帰国日、空港で母へのプレゼントを買い求めるオトゴンチュルウン氏、まだ小さい娘さんへのおもちゃを探すガンスフ氏（総じて“made in Japan”にこだわった）の姿に、１週間ぶりの家族との再会に心躍る心境を見た。日本では初夏の季節、帰国の数日前にはウランバートルで雪が降ったと後で知った。

第１回目ということで、運営メンバーは試行錯誤をしながらの受け入れではあったが、全力を尽くしてこの事業に邁進した。結果として、概ね成功の感触を得ることができたと自負している。

視察団の訪問から約６ヶ月が経過した。その後も時々ガンスフ氏とメールのやり取りが続いている。２つの主要事業のうち１つが無事なし遂げられたことを運営メンバーとしてうれしく思うと同時に、来年度以降も双方にとってさらに有益な事業となるよう微力ながら力を注いでいきたいと思っている。

（普及部　米本 真莉）

第１回モンゴル統計セミナー開催および統計事情視察（９月）

去る平成18年９月２～９日、当財団とモンゴル国家統計局（以下、MNSO）との協力事業の２つ目の柱となる、モンゴルでの統計セミナー開催、および統計事情等視察のため、爽秋のモンゴルを訪問した。

視察団は山田馨司理事長を団長に、伊藤彰彦専務理事、古田裕繁研究開発本部長、福田久明研究開発第１部長、徳永宣昭参与、伊藤亜紀子総務部職員の６名で構成した。

■ モンゴル統計事情視察

MNSOはウランバートル中心部の５階建ての政府庁舎の２フロアを占めている。各部署は小さな個室に仕切られている。

全体スケジュール

9/2(土)		出発 ― ウランバートル到着
9/3(日)	終日	ウランバートル市内およびテレルジ視察
		バジーフーMNSO総務部長主催歓迎夕食会
9/4(月)	午前	MNSO訪問
		ビャンバツェレンMNSO局長表敬
		MNSO紹介 （バジーフーMNSO総務部長・統括マネージャー）
		「2006-2010政府統計開発プログラム」説明 （デンベレルMNSO統計計画・政策調整部長）
		「データ処理技術」説明 （ツェレンハンドMNSOデータ処理技術部長）
	午後	ゴビ社訪問
		駐モンゴル日本国特命全権大使表敬
		Sinfonica主催夕食会
9/5(火)	午前	統計セミナー開会式
		「日本の統計制度の紹介」 講師：伊藤彰彦（専務理事）
	午後	「政府統計概論」 講師：伊藤彰彦（専務理事）
		ゲレルト・オドMNSO副局長主催夕食会
9/6(水)	午前	「2010年ラウンド人口センサスに向けて」 講師：徳永宣昭（参与）
	午後	ダバスーレン国連SIAP所長夫君主催昼食会
		「統計情報処理」 講師：福田久明（研究開発第１部長）
		JICAモンゴル事務所長表敬
		バジーフーMNSO総務部長主催夕食会
9/7(木)	午前	「データの質」 講師：古田裕繁（研究開発本部長）
		統計セミナー閉会式
	午後	人口センサスに関する情報交換
		セミナー打ち上げパーティー
9/8(金)	午前	ウランバートル市内視察
	午後	アマーバルMNSO総務部副部長主催昼食会
		ウランバートル市統計部視察
		MNSO訪問（来年度事業に向けた意見交換）
		ビャンバツェレンMNSO局長主催送別会
9/9(土)		帰国

９月４日、我々はMNSOを訪問し、ビャンバツェレン局長表敬の後、バジーフー総務部長・統括マネージャーによるMNSO紹介のほか、MNSO幹部からモンゴル政府統計開発計画やデータ処理技術環境の説明を受けるとともに、意見交換を行った。

MNSOの中央職員は全部で約75名と、日本の感覚からは大変少数精鋭に感じられる。例えば国際関係課には４名の職員が所属していたが、たとえ人口の少ない国とは言え、MNSOの国際関係業務を一手に担う彼らは、大変多忙であるように見受けられた。

９月８日には、首都であるウランバートル市統計部を視察訪問し、統計部長から業務説明等を受けた。

■ 統計セミナー

９月５～７日の３日間にわたり政府庁舎内大会議室において、MNSOの中央職員10名、地方職員25名（ウランバートル市６名、同市・各地区19名）の計35名を対象に、統計セミナーを開催した。

テーマは、我々の提案とMNSO側の要望とを勘案し、「日本の統計制度の紹介」、「政府統計概論」、「2010年ラウンド人口センサスに向けて」、「統計情報処理」、「データの質」の５本とした。

言語は、配付資料とプロジェクタ画面はモンゴル語とし、講義は日本語で行い日ー蒙の通訳を付けた。今回、英語を介さず日ー蒙でのやり取りとしたことは、参加者が限定されることがなく、効果的であった。

参加者は大変真面目に講義に聴き入り、熱心にメモを取る姿が見られ、また毎講義後には、積極的に質問をする者が多く、意識の高さがうかがえた。

また、セミナー最終日の講義終了後、MNSO

←テレルジツーリストキャンプ

↓スフバートル広場にて

←セミナー講義風景。熱心に聴き入る参加者

からの要請により、MNSO総務部副部長、人口センサス担当部長ほか８名と、当財団３名（古田、福田、徳永）で、2010年にMNSOが予定している人口センサスに関する法改正、広報、経費調達方法などについての情報交換を行った。

■ その他

本事業では、当初から経費をできる限り抑え、予算の残余でIT機器をMNSOへ寄贈することを予定していた。今回はPCと複合プリンタを現地で調達し、寄贈することができた。

また、多忙なスケジュールではあったが、モンゴルの風土や文化に触れる機会もあった。ウランバートル郊外のテレルジのゲルに住む遊牧民家族訪問、馬や駱駝の騎乗体験、ホーミー等の伝統芸能の鑑賞など、我々にとって大変貴重な体験となった。

MNSO職員はみな暖かく我々を迎えてくれた。彼らは概して、アジア遊牧民の朴訥さと、ヨーロッパのウィットやジェントルさの双方を持ち合わせた人柄を感じさせた。

■ 今後に向けて

今回のセミナーは、MNSO側の諸事準備の良さや、参加者の熱心な聴講姿勢に助けられ、成功裏に終えることができた。

しかし、より専門的なテーマの選定や少人数のワークショップ形式の導入、参加者枠の拡大など、来年度へ向けて工夫の余地が感じられた。より有効な方法を当財団とMNSOの双方で検討していくことにしている。

この事業の最終目標は、統計支援をJICA支援事業へつなぐことである。今回、JICAモンゴル事務所 守屋 勉所長を表敬し、話をうかがったところ、統計は、現在のJICA支援の重点課題である４分野（環境保全、経済制度整備・人材育成、地方開発、インフラ整備）のうち第１項に位置付けて、政府内の優先度を高めていく必要があるとのことであった。今後は、この立場からMNSOとの連携を含め引き続き働き掛けを行っていきたい。

最後に、今回のモンゴル訪問については、総務省統計局からの資料提供のほか、外務省、JICA本部、そしてJICAモンゴル事務所の佐々木美穂様に大変お世話になりました。ここにお礼を申し上げます。

（総務部　伊藤亜紀子）